

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970500662		
法人名	株式会社 サニーオーク		
事業所名	グループホーム 侑良の里		
所在地	奈良県橿原市木原町323-1		
自己評価作成日	平成24年2月7日	評価結果市町村受理日	平成24年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

耳成山の麓で自然に囲まれた静かな環境に位置し毎日の日課で散歩や外気浴を楽しまれています。自主防災に参加し、グループホームの理解を深めて頂き災害時の地域との相互関係を深めています。婦人会の方の協力を得て、毎年炊き出し祭を行い事業所の出来ることを伝えていきます。「あなたを大切にいたします。」を事業所の理念にスタッフ自身が入居したい・自分の親を入居させたいと思える施設作りに取り組んでいます。又看取りの際は、「その人らしさ」を最後まで尊重する様に努めています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成24年2月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、大和三山の一つ耳成山の麓に新築開所されています。周辺は自然が多く残り穏やかに暮らせる環境にあります。事業所内は明るく広くかつ清掃が行き届き、ゆとりをもって過ごせる空間が確保されています。このような環境の下で入居者は、趣味や特技を活かしながら自分の生活リズムで穏やかに過ごされています。また、地域社会との関わりに工夫した運営がなされ、地域との交流に広がりが見られます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時、又毎月のカンファレンスの中で職員全員に浸透させている。「あなたを大切にいたします」を事業所独自の理念として玄関に掲げ、意味を理解してもらい尊厳を大切にしている。	尊厳の確保と地域社会・家庭との結びつき重視の理念があり、毎月の会議等で実践に活かすための話し合いが持たれています。なお、優しい表現で理念が掲出されており、浸透の一助とした取り組みも見られます。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に門を開放しているため、散歩や外気浴等の際、話しかけられたり畑で咲いた花を気軽に持って来て下さる。又、通学路である事もあり「トイレ貸して下さい」と入って来られる	地域行事への参加はもとより、小学生の体験学習の受け入れ・緊急時の避難場所としての提供・災害想定のカキ出し祭の開催等地域との関わりを大切に運営されています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区内の小学生の教育の場に、施設を開放している。又「子供安全の町」に名乗りをあげ地域の子供達の安全に協力している。校区中学の職場体験も受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回は、必ず開催し、入居者の様子や活動報告などを話している。民生委員の方が地域の行事との関わりを取り持ってくれている。実地指導等の報告も運営推進会議の場で行ない、家族様の要望を聞きながらステップアップに繋げている。	運営推進会議は基準省令に基づき定期的に行われています。会議では、入居者の状況報告とともに、サービスの質の向上・確保に向けての意見交換がなされ、開陳された意見等を運営に反映させる取り組みがなされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回、介護相談員の方に入って頂き入居者の方と話している。三者間連絡会にも参加している。運営推進会議は、市・包括・民生委員の方の参加のもと行なっている	毎月の介護相談員の受け入れと意見交換や運営上の諸課題について相談・情報交換等に適宜行政窓口を訪問され、連携・協力関係の構築に努められています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル等を活用しカンファレンスや勉強会で身体拘束について説明している。居室のベットの位置を工夫するなど安易に身体拘束をしないですむ方法を話し合っている	身体拘束による弊害を全ての職員が正しく理解され、暮らしの支援の中で実践されています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや勉強会に虐待について説明したり、折に触れその都度「言葉の虐待、介護放棄」などを話し取り組んでいる。管理者として常に視点を持ち日頃から注意を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおられ、月一回のカフェインスでの際に話す事や勉強会でも取り上げて積極的に取り組んでいる		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を読み上げ、疑問に感じられた点はその場で解り易く説明している。特に利用料金や医療連携体制など、詳しく説明している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を月一回来てもらい、運営推進会議にも参加。入居者や家族の思いを聞いてもらい反映出来る様にしている 玄関に苦情箱を設置し不満の声があればすぐに対応出来る様にしている	家族の訪問時や運営推進会議での意見・要望等の聴取や介護相談員との面談の中での意見等を検証し、運営に反映させる取り組みがなされています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の全体カフェインス、各委員会カフェインス、毎朝の申し送り時に意見を聞くようにしている。 又、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心掛け気軽に意見が言える様にしている	毎月開かれている会議は、入居者の状況確認とともに、サービスの質の確保への意見・提案する機会とされており、出された意見等は運営に反映させる仕組みとなっています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	二ヶ月に1回代表者と現場の管理者が話し合う、管理者会議を開催しています。現場環境や改善策を話し合い職員にとってよりよい職場環境になるよう話し合っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員が順番に事業所の年間研修計画に沿った勉強会を実施している。法人としての研修を定期的に行なっている。法人に来た研修や講習会の情報を貼り出し職員に伝えている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各分野の勉強会や合同のイベントを企画するなど交流を持ち サービスの内容を参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状態や本人の思いに向き合い職員が本人に受け入れられる関係を作る為細かく対応についてカンファレンスを実施している。又、気づきノートを活用し、情報を共有出来る様にしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時、見直し時期に家族様に不安や心配事、要望等の確認を行っている センター方式の用紙を渡し、より理解を深め相談漏れのないように記入していただいている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な入居者には自社にも他のサービスがあり、可能な限りその方のニーズにあった場を提供している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、たたみ、清掃等を一緒にお手伝いして頂き会話しながら行なっている。食事と同じ物を同じテーブルで一緒にとっている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前に同居していた旦那様が、会いに来られ畑で作った野菜を持って来られたり便秘に良いとさつま芋を蒸かして持って来て居室で一緒に食べ夫婦の時間を過ごされる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた元かかりつけ医の先生が様子を見に会いに来てくれお茶を飲みながらゆっくり居室で過ごされている。	馴染みの店での買い物・美容院での整容・手紙の活用による知人との交流等馴染み関係の維持・継続に取り組まれています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1つのテーブルを囲み、皆様に壁画の共同作成を職員も関わりながら一緒にしている フロア南側のテーブルには自然と人が集まり、テレビを見たり歌を唄ったりと、団らんの場になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた入居者の顔を見に行ったりして 継続的な関わりをもっている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、過ごしてもらう中で気軽に話しかけて頂ける環境作りや一緒に何かに取り組む、一息つくような場面で利用者の意向を確認している	日々の暮らしの中の言動等の観察や家族の訪問時等の機会を活用され、一人ひとりの思いや希望等の掌握・記録に努められています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様にセンター方式を記入して頂き、今までの生活歴、暮らし方の把握に努めている。暮らしの中で変わった事があれば、その都度家族様に聴いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズムを理解し、センター方式を活用し心理状態、身体状況を記録している。出来る事に注目し生活の中に取り入れ職員が支援している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者担当の職員を決め実施ケアの評価を3ヶ月ごとにし、カンファレンス時に 日頃の関わりの中での思いや気づきを参考にし、本人や家族様の要望を取り入れた意見交換をし ケアプランに反映している。	介護計画作成と適切な見直しの必要性について、職員全員が正しく認識され、常に現状に即した計画となっているかを関係者により意見交換しながら介護計画に反映されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回ケアカンファレンスを実施し各入居者の確認を行っている。個別に介護記録を記入し気づきを重視した記録、連絡・気づきノートを作成。業務前にどちらも読んで情報の理解、状況の変化があれば見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長年ファンであった演歌歌手のコンサートに職員が同行した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	木原町の民生委員の方が事業所のイベントにも参加され入居者の相談、話し相手をして下さる。又、木原町の自主防災にも参加し災害の際の協力体制を整えている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医にしてもらっている。馴染みのかかりつけ医には状況変化を細かく相談しており、かかりつけ医の判断の上、病院受診に同行している	かかりつけ医については、入居時に相談され、本人の希望を優先されています。なお、受診に際しては、暮らしの様子等の情報提供がなされ、適切な医療確保が図られています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による内服管理で常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえる様にしている。又医療連携ノートで日常の気づきや情報を伝え個々の支援に繋げている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を提供し、頻りに職員が見舞うようしている。医師と話し合いの機会を持ち、事業所内医療関係とも相談・連携をはかり、事業所内での対応可能な段階で受け入れること説明している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の看取り指針を説明、本人や家族様の意向を踏まえ終末に対する対応指針を定め随時同意書にて確認しながら連携を図っている。	終末期への対応には早くから積極的な取り組みがなされ、明確な方針の樹立と職員の理解・協力・浸透が図られています。なお、入居時に家族等へ事業所の方針が伝えられています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回は全ての職員を対象に、緊急時マニュアルを用い勉強会の実施、又、AEDを配置し、消防署員を招き蘇生法等の利用方法を実践的に研修している 又、マニュアルを作成し事務所に掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一回は全ての職員を対象に、緊急時マニュアルを用い勉強会の実施、又、AEDを配置し、消防署員を招き蘇生法等の利用方法を実践的に研修している 又、マニュアルを作成し事務所に掲示している。	定期的に消火・避難訓練等が実施されており、地元自治会への被災時の応援・協力体制の構築も図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に守秘義務の同意を取っている。ケアルスの中でも定期的に周知徹底し、日頃の関わりでも誇りやプライバシーを損ねない様に配慮している	尊厳の確保を常に認識され、一人ひとりに合わせた姿勢・話し方等に配慮した対応がなされています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	～しましょうかと言う入居者からの言葉を聞き流すことなく快く願っている。又こちらからお願いする時は、～してくれますかと相手の返事を待ちながらすすめている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているがあくまでも個別ケアで「今日は散歩するわ」「今日はお風呂止めとくわ」と本人の意思を尊重し、体調に合わせた1日を過ごしてもらっている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方が多く、自分で服を選ばれる、モーニングケアもしっかりされている。白髪染めを望む方には入浴前に毛染めを行っている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付け等、積極的に手伝ってくれている。好みの物をメニューに組み込んだりお好み焼きをフロアで焼いて皆で食べたりしている	調理の下ごしらえや配膳・後片付け等に協働され、楽しい食事環境づくりに取り組まれています。なお、栄養バランスの確保を図るために、食事委員会で献立等の検討がなされる仕組みがあります。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量のチェックを行い、10時と15時にはお茶を出し 水分を取ってもらうよう心がけている。又、肥満傾向の入居者には主食を少ないめにし副食(野菜)を増やして満腹感を持ってもらうようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人口腔ケアを行なっている。自立の方も最終チェックはさせてもらっている。夜間 義歯はポリドントにつけ、清潔を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	皆様尿意・便意があり、自立でトイレに行かれているが、多少の失禁があり、ご本人がトイレに行かれた際に自然に後を追ひ、確認・ケアするようにしている	排泄パターンの掌握・記録と行動観察により、必要に応じてトイレ誘導がなされ、自立排泄への支援がなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックは必ず行い、訪問看護のほうでも定期的に個々に応じた対応をもらっている。普段から天然の寒天を使ったおやつやヨーグルト・果物の摂取、牛乳、ヤクルト等飲んでもらっている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調を見ながら身体の負担にならない様、時間帯も考慮し入浴して頂いている。本人の意向に沿って臨機応変に対応している。「今日一緒に入ろうか」と馴染みの入居者同士入ったりしている	一人ひとりの体調を勘案されながら、本人の希望を優先した支援が図られています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも自分の部屋でリラックスし休息を取られたりしている。全体の消灯時間は有るものの夜眠れない方にホットミルクをだしたり、眠るまでテレビを見てもらったりとゆったりとした夜を送ってもらっている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアカンファレンスで注意しなければならない薬について副作用の説明している。ファイル内に薬の処方箋があり職員が内容について把握できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な仕事をそれぞれの方にお願ひし、個々に役割がある事を知ってもらい常に感謝の気持ちを伝えている。作品の製作や音楽療法での楽器演奏なども気分転換につながっている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の気分に応じて散歩やドライブに出掛けている。家族様が自宅に連れて帰られ一緒に食事を共にされたりお墓参りをされる事もある。	外出により受ける肉体的・精神的効果を認識され、天候や体調の様子を見ながら、周辺の散歩や買い物等外出機会の確保が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預り、事務所で管理しているが、買い物等本人の希望時は職員支援のもと手渡している。神社へ出掛けた時には個々にお賽銭を持ち、入れてもらっている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀ハガキを出す為の支援を欠かさず行い、個人に来た手紙やハガキは手渡し読めない方には読んでいる 面会に来てくださった親戚の方にはお礼のハガキを出したりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面に季節の花を飾っている。イオンの空気清浄機を配置し、空気、臭いに配慮している。家庭的雰囲気を保ち置物装飾を工夫している。施設内は温度差が出ない様に気をつけ窓はレースのカテンで光を間接的に取り入れるようにしている	共用空間は、清掃が行き届き清潔感が溢れています。また、採光や室温管理への工夫と入居者の作品の装飾がなされ穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	707 - 南側にTVを置き、テーブルと椅子を配置し、自然と皆が集まり歌が聞こえてきたりしている。一段上がって和室があり その入口で腰掛け、707-に座っている入居者と会話している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居者が今まで使っていたタンス、鏡台、テレビなどを持参され写真や好みの装飾品を置かれている。枕を持って来られている方もあり、毎日使っておられる お気に入りのリクライニングチェアで食後のコーヒーを楽しまれる方もある。	使い慣れた家具や好みの写真等が持ち込まれ安心して過ごせる居室となっています。なお、各居室にトイレ・洗面所が完備されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・707・廊下と手すりが着いており、自分の力で立ったり座ったり出来る補助になっている。居室の入口に独自の表札を掲げている方がいる。日めくりカレンダーをめくる事で日にちを確認している		